

様式第 3

会 議 録

会 議 名	第 1 回野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会 会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 鈴木貫太郎記念館再建基本構想の概要について（公開） 2 鈴木貫太郎記念館再建基本計画項目案について（公開）
日 時	令和 7 年 2 月 2 8 日（金） 午後 2 時から午後 2 時 5 5 分まで
場 所	市役所低層棟 4 階 委員会室
出 席 者 氏 名	委員 菅根幸裕（議長）、下津谷達男、稲村弥、櫻井良樹、山本 和也、澤田修、岩岡竜夫、筑井正
	職務上の意見等を伺うため出席を依頼した職員 染谷篤（教育長）、宮崎等（市史編さん担当、欠席）
	事務局 鈴木有（市長）、今村繁（副市長）、牛島修二（市政推進 室長(兼) P R 推進室調整担当）、野本勝大（市政推進室主 任主査(兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当）、笹川知樹（ 市政推進室主任主事(兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当）
	関係課 生嶋浩幸（教育次長(兼)生涯学習部長）、安藤剛行（生涯 学習部参事(兼)生涯学習課長）、戸邊卓哉（P R 推進室参 事(兼) P R 推進室長）、金子正道（都市計画課長）、大熊 佐智子（生涯学習課文化財係長）
欠 席 委 員 氏 名	無し
傍 聴 者	3 名
議 事	第 1 回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議の 会議結果（概要）は、次のとおり。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	1 開会 報道機関から取材の申込みがあり、取材の許可について 委員に諮る。
委員一同	異議無し。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	報道機関の取材を許可し、入室を案内する。 会議録作成のため録音機の使用及び会議の公開並びに傍 聴について説明する。 また、会議資料、会議結果及び会議録の公開について、 説明する。

市長挨拶	2 市長挨拶
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	3 出席者の紹介及び説明 委員名簿にしたがい、委員について紹介 野田市教育委員会教育長及び野田市市史編さん担当職員 の本会議への出席及び欠席について、説明及び紹介 事務局の紹介並びに関係各部局の所属長等及び鈴木貫太 郎記念館再建基本計画策定業務を委託している株式会社丹 青社の担当が出席していることを説明
市長	4 議長指名 野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員設置 規則第5条第2項の規定により市長が指名
議長	菅根委員を指名
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	指名を受けて、議長挨拶
議長	議事の進行について、議長に依頼
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	5 議事 議題1「鈴木貫太郎記念館再建基本構想の概要について」 事務局に説明を求める。
議長	資料1では基本構想の概要をまとめていることを説明 1 ページ目については、記念館の建設の経緯から施設の 課題、再建に至る経緯についてまとめていることを説明 2 ページ目では、現在の記念館の建設の経緯についてま とめていることを説明 3 ページ目以降については、基本構想において定めた事 項及び今後基本計画において定めていく事項について例示 していることを説明
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念 館建設準備担当	事務局の説明に意見、質問等があるか伺う。 資料1の1 ページ目に、新たな観光・商業施設等の立地 を誘導するとあるが、つまり博物館を中心としてそういっ たエリアを作るといふことか。
	お見込みのとおり。立地適正化計画等の中で、機能誘導 施設ということで再建する記念館を位置づけ、地域の活性 化につなげることができればと考えている。

議長	誘導する施設について、具体的なものは考えているのか。
市長	記念館を再建するということが大事だが、地域の活性化を図る必要がある。貫太郎記念館を中心にし、現在の記念館が建設された場所には経緯があり、近隣にはそれ以外の他の観光資源も多くあることから、活用しながら、一方で、滞留してもらう施設も必要であり、隣接する土地にそのような形の、例えば川の駅、道の駅のような施設を設置し、ある程度滞在してもらえりような、交流の拠点を考えている。
議長	他に意見、質問等あるか問う。
岩岡委員	確認だが、今ある記念館は解体するということによろしいのか。強度の問題などがあつたりしてるということ。
市長	一部残したりや基礎を残すということは考えていない。ただ、記念館の前にある「萬世のために太平を開かん」と描かれている塔碑は残した上で、それ以外の建物は全て壊し、再建する。
櫻井委員	タイムスパンの問題だが、どれくらいの時期にという話は決まっているのか。
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	再建に当たっては財源の確保の課題があり、財源の確保策として国の補助金の活用を考えている。国の補助金の活用の中でスケジュールを進めており、令和7年度中に立地適正化計画を公表できるよう作業が進められ、併せて都市再生整備計画も並行して作業している。その上で、令和8年度から都市構造再編集中支援事業の国費補助を活用した事業を進めていきたいと考えており、令和8年度において詳細設計等を実施できるよう進めている。
稲村委員	登録博物館を目指すということで、施設設備に関する基準の中に高齢者や障がい者など博物館の利用に困難を有する者が、円滑に利用できるための配慮がなされていることという項目があり、構想にはその辺が不足していると考え。例えば救護室などの設備を検討いただければ。
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	基本計画の施設整備計画の中で、頂いた意見などの施設についても設置を検討していく。

下津谷委員	これまでの記念館の展示では、関宿に帰ってからの貫太郎との関係、その展示というのがほとんどなかった。新しい記念館では、地元との関わりなどを説明し、酪農というものを普及させようとした努力、それから併せて、貫太郎が亡くなった後、タカ夫人と地域の人たちの関わりについても展示をして欲しい。軍人としての貫太郎の展示はもちろん必要だが、それ以外に野田ということで考えれば、大きな展示の項目として取り上げていただきたい。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	かつての鈴木貫太郎記念館の展示は、御指摘のとおり地域との繋がりという部分は少し弱かった。新しい記念館では、計画の中で地域との繋がりというのを入れていければ。また、貫太郎のお父さんが関宿町長をやっており、関宿にいない状態でも、繋がりがあったということを展示の中などで示していければと考えている。
議長	他に意見、質問等あるか問う。 登録博物館を目指すということで、まずは博物館自身をしっかり作っていくことが大事。 その上で、努力目標として文化観光というものがあるわけで、一番避けたいのは、博物館そのものを文化観光施設としてしまうこと、商業観光化して、物産館のようにしてしまうことはあってはならない。 まずは、登録博物館としてしっかりとしたものを作っていくこと。 他に意見、質問等あるか。
委員一同	意見、質問等無し。
議長	議題2「鈴木貫太郎記念館再建基本計画項目案について」事務局に説明を求める。
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	基本計画の骨子となる項目は、資料2のとおり。 各項目について概要を説明
議長	事務局の説明に質問があるか問う。 施設整備とか管理運営というのは、集客交流よりも前のことだと考える。そういうものがしっかりできてから集客交流等を考えた方が、集客交流のための施設を作ってしまうことになる。それは避けたいと考えている。
稲村委員	管理運営ということが書かれているが、評価みたいな形のことはやっていくのか。この管理運営計画という引き継ぎ運営していくということになってくると思うが、その

副市長	時点で何か計画に対して評価や、あるいは運営の先の話かもしれませんが、その運営状態を評価するというようなシステムは検討しているのか。 まずこの項目案、先ほど議長からあったが、この項目の順序については、この順番でやるということではないということで、財源の問題などもあり、立地適正化計画と並行して行っていく。立地適正化計画との兼ね合いで必要となるものを随時先にとということもあるのでお願いします。 この管理運営計画については、基本的には運営主体を直営でやるのか指定管理者でやるのかということを中心に考えている。開館してからの評価ということは、当然考えていかなければいけないことで、例えば指定管理者制度については、毎年度フォローアップということで行っており、そういう形で評価ということはしていかなければと考えている。
稲村委員	施設整備計画の中で、収蔵庫の検討もされると思うが、どのぐらいの規模を作るか分からないが、中央博物館の例では、温湿度管理について中央方式というか、集中管理しているが、その方式では、私見では、修理するときが大変かと感じている。維持補修する上では個別に維持管理できる方が良くと思う。
議長	他に意見、質問等あるか。
委員一同	意見、質問等無し。
議長	議題としては以上になる。 その他について事務局からお願いします。
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	次回の会議につきまして、資料２でお示しした各項目について具体的な案を作成し、順次進めていく。 今回同様開催日の調整について、御協力をお願いします。
議長	新しい博物館にどんな希望を寄せられるか、何かあればお願いします。
岩岡委員	今まであった記念館が、ハードの部分で問題があったということですが、ソフト的に何か問題があったことはなかったか。それはどういうふうに考えたらいいか、考えていることがあれば。

市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	元々の鈴木貫太郎記念館は、いわゆる博物館類似施設というもので、博物館法における博物館ではない。 そのため、人員の面でも、文化財を担当する学芸員が兼任で運営していた。 所蔵資料の目録に関しても、しっかりとしたものは整備しきれていなかった。 そういったところの解消を図りながら、再建を進めていきたい。
岩岡委員	何か参考になっている博物館は全国にあるのか。特にそういうものはないのか。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	特にはない。いくつか日本全国に記念館などもあるが、やはり一般的な郷土博物館、県立博物館とは異なり、個人の記念館ということで、資料が際限なく増えていくわけでもないという特性がある。 そのため、個人記念館というようなところをいくつかかいつまんで参考になっているもので、具体的にここをメインにというものは今はない。
櫻井委員	事業活動計画の中にどれほどいろんなことを取り込んでいくかということに関係をしてくるかと思うが、2点、希望がある。 一つ目は発信の機能。収蔵しているものをどのように発信していくかという、その発信の機能を含めるということが法的にも重要で、注目を浴びる上でも重要。 二つ目は資料の保存に関して。以前、昭和天皇実録で宮内庁の書陵部が調査をした時に、その調査をした人から聞いたが、資料に鉛筆で書き込みがあったりするが、どんどんどんどん消えていつてしまっている状況にある。どこかでそれをストップさせなきゃいけないというようなことがあるが、これは単なる保存ではなくなると思う。 実際に読んでないので分からないが、それが読めるようにして何か学術的にも、必要かなというふうに思う。
市政推進室主任主査 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	一つ目の発信については、様々な媒体、市報やSNS、ホームページ、あらゆる手法で、魅力を発信していきたいと考えている。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	二つ目の資料の保存について、貫太郎に関わる非常に貴重な資料として、戦中のメモなどがある。あとは、木戸幸一日記への書き込みなどが当時のものが残されているが、非常に紙の状態が悪いところがある。資料保存の学術的な部分により調査した上で、公正に伝えていけるような形で保存できればというふうに考えている。

議長	また、資料の発信というところで、資料を写真撮影や様々な形でデジタル等にするということで、見られるように整えていければというふうに考えている。 まず、登録博物館ということで、何といたってもデジタルのアーカイブ、資料のコレクションドキュメンテーションがしっかりしていること、そして理念がしっかりしていることが登録のためには必要になってくる。 そのために、どれだけの人員配置がされて、どれだけの事業ができるかってことは、結論からすると相当な費用がかかってくる。 どれだけの人員配置ができるか、それからどれだけの台帳ができるかと、そういうことを基本作業として人員を確保する、しっかりとしたプランを立てて台帳を作る、デジタルのDXを作って発信していくという、そういった部分が必要になってくる。 そういったことで、基礎的なことを建物を建てるもそうだが、基礎的な構築が必要になってくる。 他に意見、質問等あるか。 博物館以外の方の分野の方でも何か、博物館のここに期待してるみたいなもの。商工会さんの方から何か。
澤田委員	記念館の再建計画に入って、筑井副館長とも話をするが、地道なことで商工会の方は英語版、中国版、日本版とチラシを作成し、歴史を教える、今そういうのを配ったり実施しているが、これが活気づければ貫太郎記念館にもうまく連携し、観光地になればというふうに考えている。 バイパスもでき、記念館に接続する道路は静かな道になったが、極端に言えば盛り上げるためにも、名前を平和通とか、記念通りとかそういう名前を付けるだけでも人は興味を持ってくれるのかなと考えている。これから商工会でもいろいろと検討をしていきたい。
議長	他に意見、質問等あるか。 今日は基本のことで、これからいかに、きちんとしたものを作るかということ、この専門委員会でいいものを作っていきたいと思う。 よろしくお願いします。以上で、議事は終了となる。 事務局にお返しする。
市政推進室主任主事 (兼)鈴木貫太郎記念館建設準備担当	6 閉会